

VOL.29 NO.1
(通巻85号)

2002
ART NEWS
千葉県立美術館



ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー
《セント・マイケルズ・マウント、コーンウォール》
油彩



エドワード・バーン＝ジョーンズ
《水車小屋》1870-82年 油彩

©The Victoria and Albert Museum, London

特別展

ヴィクトリア&アルバート美術館所蔵

英国ロマン主義絵画展

「V&A」の略称で知られるヴィクトリア&アルバート美術館は、大英博物館、テート・ギャラリー、ナショナル・ギャラリーと共に高い人気を誇る、英国を代表する国立美術館です。その前身はロンドンでの万国博覧会を記念して1852年に創立された産業博物館にまでさかのぼり、数の上ではナショナル・ギャラリーを上回る絵画コレクションを有しています。

8月24日から10月6日まで開催されるこの展覧会では、V&Aの膨大なコレクションの中から選りすぐった61作家116点の油彩、水彩、素描により、英国のロマン主義絵画を御紹介します。

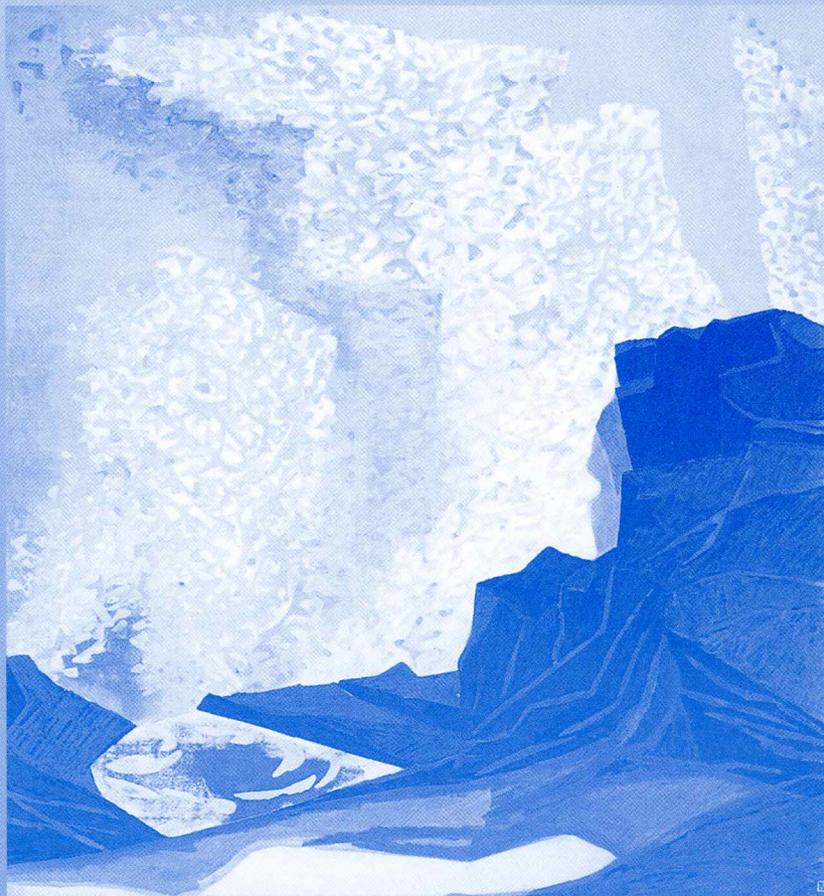
ヨーロッパ大陸と海峡を隔てて位置する英国の美術は、大陸の動向とは適度に距離を保ちながら自らの表現を育んできたといわれますが、18世紀のヨーロッパで絵画・文学・音楽など芸術のあらゆる分野に及んだロマン主義の潮流も、英国では、より多彩な展開を見せました。

展覧会では、英国ロマン主義の先駆であるブレイクの夢幻世界、ターナーの壮麗な風景表現、コンスタブルの凝視した田園風景、ラファエル前派の神秘と精緻、ビアズリーの醸し出す頹廃、さらにその伝統から学んだサザーランドら20世紀の画家たちの幻想的風景画など、18世紀から脈々と続く多様で奥深い英国ロマン主義絵画の濃密な世界に浸ることができるでしょう。

平成3年の「英国水彩画展」以来、当館では11年振りに開催する英国美術の展覧会です。千葉を皮切りに4会場（名古屋、郡山、神戸）を巡回しますが、関東では当館のみの開催となります。ぜひこの機会に、英国美術のパワーの源泉ともいべきロマン主義絵画の華麗な流れを御堪能ください。

特別展 ヴィクトリア&アルバート美術館所蔵

英国ロマン主義絵画展 8月24日（土）～10月6日（日）



吉岡堅二《濤》紙・着彩

夏の収蔵品による企画展は、「海」がテーマです。日本は海に囲まれ、その自然の恵みを受けながら人々の生活が営まれてきました。また、芸術家たちは様々な海の表情を題材として取り上げています。今回の展示では風景としての海や海と関わりながら生活する人々などをモチーフとした日本画、洋画作品等を紹介します。

風景として描かれた作品の中には、海の自然としての雄大さ、厳しさがテーマになっている作品があります。その中のひとつとして、吉岡堅二の「濤」があります。岩に打ちつけられた波が高くしぶきを上げている様子を画面一杯に幾何学的に抽象化して描き、壮大な雰囲気をつくり出しています。

荒々しいだけでなく、静かで穏やかな海の表情も見ることができます。明治期に活躍し、日本で水彩画の普及に貢献した、大下藤次郎の「波」は、岸边に打ち寄せる波を水彩らしい淡い色調で描いています。その他、水彩画でありながら、油彩画を思わせるような筆触で爽やかに海岸風景を描いた小堀進の「真夏の海（大海）」「太平洋の漁村」などがあります。

また、今では見ることができなくなった海岸風景も見ることができます。ピゴアの「稲毛の夕焼け」では明治期の稲毛海岸の一端が描かれています。ピゴアは日本各地を旅行し明治期の日本の風俗を描きました。稲毛にアトリエを構えたことがあり、稲毛海岸を描いた作品を数点残しています。

時田直善の「夕凧」は、凧が訪れた漁村の様子が暖かみのある色調で描かれ、静かで穏やかな時が訪れたことを感じさせます。この作品は埋め立てが行われる前の検見川の漁村風景がモチーフとなっています。時田は千葉県内各地を取材した作品を多く残しました。そんな時田の作品からは今は消えてしまった昔の千葉の様子を伺うことができます。

海に生きる人々をモチーフとした作品として若木山が描いた「安房ノ海処女」、「潜」などがあります。「安房ノ海処女」では、若い海女を澆刺と描き、「潜」では、海中で貝を採る海女や海草等の形態を単純化し、装飾的に描くなど若木の表現の多様性が見られます。

自然のすばらしさを思い起こさせる海、人々の生活の場としての海など27作家31作品による海に因む様々な光景や表現を御覧ください。

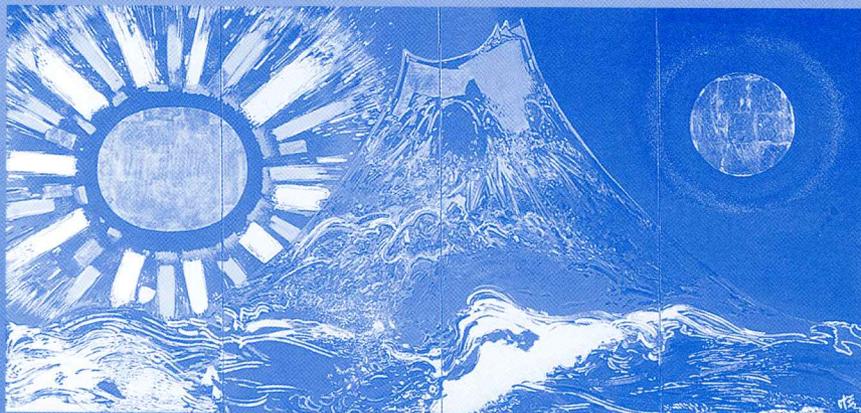


片岡珠子《富士》リトグラフ

企画展

こどものための展覧会2002

「こどものための展覧会」は毎年、子どもたちが美術作品や美術館に親しみをもてるように、作品



櫻井孝美《天と地と》油彩

作に向かう画家の仕事は是非ご覧ください。版画家の池田満寿夫さんが晩年没頭したのは陶

を「みる」活動とともに、「描く」「つくる」「対話する」など体験的活動を重視して展覧会を構成しています。とりわけ土・日曜日のワークショップは展覧会テーマに関連した創作を楽しむことができます。今年のテーマは富士山、どんなワークショップになるか、乞うご期待。

一方、本展の展示作品は子どもだけを意識した構成ではないので、大人も充分に楽しむことができます。その一部をご紹介します。

片岡珠子さんは今年97歳の日本画家ですが、若々しく力強い上の「富士」は今年制作したリトグラフ作品です。日本画家には珍しくご自分で版をつくりまので、画家独特ののびやかでしかも繊細なタッチを随所にみることができます。また本金箔やプラチナ箔をつかい多数の色と版をかさねた精緻な刷りも見応えがあります。その片岡さんは「富士山を描くたびに“おまえの絵はぼくの高さも、稜線も、精神もなにも描けてないじゃないか”って言われるのよ」と語ってくれました。真摯に制^ア

「日本といえはなに？不二山三昧！」

芸でした。「絶対に富士山だけは描くまいと決心していた」池田さんは、あるきっかけから富士山にとりつかれました。猛烈な勢いで創造のエネルギーが噴出し、数百の「不二山」がうまれたのです。30cm×30cmの大きさの20枚の陶板作品からそれを感じとって欲しいと思います。

浴室シリーズで知られる安井賞作家の櫻井孝美さんは山梨県富士吉田にアトリエがあります。窓から「家族の幸せを見守ってくれている」富士山がどんとみえます。通俗をおそれることなく原色でグイグイ描いた大作は、みる者を喜色につつまこみ、活力を与えてくれます。

その他、葛飾北斎の富嶽三十六景の中の白眉「山下白雨」、絹谷幸二さん「黄金富嶽 日の出」(アフレスコ)、後藤純男さん「2000年旭光富士」(日本画)、安達時彦さん「紫映富士」(油彩)など。

富士山をあえて「不二山」として、文字どおり二つとない個性豊かな作品を生む7人の画家による43点を展示します。



2001年ワークショップ「ウォールペイントしよう」

誰でも楽しめるワークショップ

《素敵に！美的に！コラボレーション》

近年、こどもを対象にした美術館事業の開発に重点を置いて、一昨年度から「つくる」行為を全面に押し出した既存概念にとらわれない様々な創作体験プログラムの開発に力を注いできました。その核となるものが『ワークショップ』です。

昨年度までは、こどものみを対象にして実施してきましたが、本年度からはこどもから大人まで参加対象を広げ、ケンビの「エキサイティング」なワークショップを楽しんでいただければと思います。

年間5回ほどのプログラムを開催します。

＜9月以降のワークショップ＞

★『ウォールペイント+ロールペイント』★

■日時 9月28日(土) 13:00～15:00

■対象 こども～大人 定員100名
■内容 野外の壁・ロール紙にフリーペイントするエキサイティングな創作体験。

★『モニュメントアート広場に変身!』★

■日時 11月17日(日) 10:00～12:00

■対象 小学生～高校生 定員50名

■内容 千葉ポートパーク内で開催する段ボールを使ってモニュメントを作る創作体験。

★『アーティストと共演! スチロールオブジェ』★

■日時 平成15年1月25日(土) 13:00～15:30

■対象 小学生～高校生 定員30名

■内容 発泡スチロールを特殊なカッターで切り取り、立体オブジェを作る創作体験。

【詳細は、美術館までお問い合わせを】

写真は昨年度のワークショップ

「ウォールペイントしよう」の様様です

＜実 技 講 座＞

当館は、「みる・かたる・つくる」を活動の基本方針とし、開館以来、幅広い美術館活動を展開しています。その基本方針の一つである「つくる」に関して重要な役割を果たしているのが、「実技講座」です。昭和54年に県民アトリエが完成してからは、より充実した活動内容となり、すばらしい講師陣の協力を得ながら受講者の積極的な参加によって運営されてきました。

今年度も、「美術館でしか味わえない・・・美術館ならではの創作芸術空間」をキャッチフレーズに、本館主催の講座として陶芸・彫刻・版画・金工・篆刻の5講座と、平面作品の制作を主にした友の会主催の洋画・日本画・デッサン等13講座を開講しています。

初心者から経験者まで誰もが楽しく参加できる講座として、県民の皆様にも親しまれる実技講座を目指し、「つくる」ことの楽しさを身近に感じていただくことができれば幸いです。

10月以降の美術館主催実技講座の予定

○版画講座(10/30～11/14 全10日間)

講師 上田 靖之

申込締切日 10月17日(木)

○金工講座(1/28～2/8 全10日間)

講師 小林 正利

申込締切日 1月14日(火)

○篆刻講座(2/20～2/27 全6日間)

講師 細谷 恵志

申込締切日 2月11日(火)

【申込方法】

往復はがきに希望講座名・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入の上、千葉県立美術館普及課までお申し込みください。定員を超えた場合は抽選となります。

担当 普及課 黒川 利也

＜特別展以降の展覧会の紹介＞

「房総と近代美術」 11月9日(土)～3月30日(日)

「触れる美術展」 11月19日(火)～12月1日(日)

「まるかじり」 11月23日(土)～1月26日(日)

「浅井忠」 11月23日(土)～3月30日(日)

「相・会・愛」-対のかたち-

2月1日(土)～3月23日(日)

「第26回千葉県移動美術館」

第1会場

市川市文化会館11月16日(土)～12月1日(日)

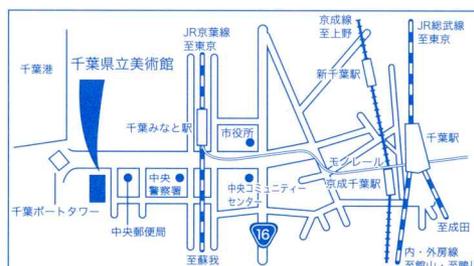
第2会場

サンプラザ市原12月4日(水)～12月15日(日)

＜美術館案内＞

●JR「千葉」・京成電鉄「京成千葉」駅より「千葉ポートタワー」バス15分「美術館・中央郵便局前」下車徒歩1分

●JR(京葉線)・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車徒歩8分



〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1
☎043(242)8311(代)